【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成24年3月8日(2012.3.8)

【公表番号】特表2008-536535(P2008-536535A)
【公表日】平成20年9月11日(2008.9.11)
【年通号数】公開・登録公報2008-036
【出願番号】特願2007-556568(P2007-556568)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｆ　2/30　(2006.01)
Ａ６１Ｆ　2/32　(2006.01)
Ａ６１Ｌ　27/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｆ　2/30
Ａ６１Ｆ　2/32
Ａ６１Ｌ　27/00　Ｌ

【誤訳訂正書】
【提出日】平成24年1月18日(2012.1.18)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
チタン合金からなるシャフトを備える関節プロテーゼであって、
少なくとも上記シャフト（１０、３２、３３）が、インベストメント鋳造され、体心立方結晶構造を有し、
上記チタン合金は、チタンモリブデン合金であり、
上記チタンモリブデン合金におけるモリブデンの含有量が、１５％であり、
当該関節プロテーゼの弾性係数が５９．４～６８ｋＮ／ｍｍ^{2}の範囲にあることを特徴とする関節プロテーゼ。
【請求項２】
大腿骨プロテーゼ（１）として設計されたことを特徴とする請求項１記載の関節プロテーゼ。
【請求項３】
膝プロテーゼ（３）として設計されたことを特徴とする請求項１記載の関節プロテーゼ。
【請求項４】
上記結晶構造の平均粒子サイズが、少なくとも０．３ｍｍであることを特徴とする請求項１～３のいずれかに記載の関節プロテーゼ。
【請求項５】
上記結晶構造の平均粒子サイズが、０．５ｍｍであることを特徴とする請求項４記載の関節プロテーゼ。
【請求項６】
少なくとも上記シャフト（１０、３２、３３）が、熱間等方加圧成形され、溶体化焼鈍されることを特徴とする請求項１～５のいずれかに記載の関節プロテーゼ。
【請求項７】
上記熱間等方加圧成形が、チタン合金のベータトランザス温度以下であって、上記ベー

タトランザス温度から１００℃低い温度以上の温度で行われることを特徴とする請求項６記載の関節プロテーゼ。

【請求項８】

上記チタン合金が、バナジウム及びアルミニウムを含まないことを特徴とする請求項１～７のいずれかに記載の関節プロテーゼ。

【請求項９】

上記チタン合金が、ビスマスを含まないことを特徴とする請求項１～８のいずれかに記載の関節プロテーゼ。